

ふくしまオーガニックコットンプロジェクトオンライン報告会

「ふくしまオーガニックコットンプロジェクト」のコットン畑に、今春外部からおいで下さる援農ボランティアの姿はありませんでした。その為、畑の準備から種蒔きまで、春の農作業を行うコットンチームメンバーの作業負担は一挙に大きくなりました。そうした中、昨年度のコットン栽培を振り返り、今年度の取り組みを説明する「ふくしまオーガニックコットンプロジェクト報告会」が、6月13日オンラインで催されました。本来なら福島へ足を運んでくださった首都圏の方々向けに都内で開催したいところですが、新型コロナウイルスの感染防止の観点から、オンラインでの開催としました。なお、この事業は地球環境基金の助成を受けて実施しました。

この日は梅雨入り直後のあいにくの雨模様。事務所からの報告だけではなく、コットン畑からの中継も4か所繋ごうと企画していたので、雨の中でうまく繋がるのか心配しながらの実施でした。オンライン参加者は約70名。福島に何度も足を運んで下さった援農ボランティアの方、これまで助成金の供与という形で支援して下さいました企業の方、首都圏でコットン栽培にチャレンジしている方…と、多様な方々が繋がって下さいました。

時折、zoomの扱いが不慣れな為にまごつくこともあったのですが、参加者の方々の温かなまなざしに助けられ、2時間の報告会は終始和やかなムードの中進められました。「次は、コットン畑で会いましょう！」を合言葉に会を閉じました。一日も早い事態の収束が望まれる報告会となりました。

※動画として残された記録があります。

視聴を希望される方は事務局までお知らせください。URLをお伝えいたします。



▲オンライン報告会参加メンバー

マスクでつながる交流事業

マスク不足は、ここいわきでも店頭からマスクが姿を消して慌てさせられましたが、首都圏では比較にならないほどの深刻さと伝え聞き、以前本会に関わり現在首都圏の老人福祉施設で働く仲間の仲介を受けて、手作りマスクをお届けしました。「丁寧に手作りされたマスクに感激しました！」と利用者のご家族からお礼のメールが届き、本会としても役に立てたことをうれしく思いました。そして、この体験をもとに、本会が行っているフードバンク事業の中で生活困窮状態にある方々にも手作りマスクをプレゼントすることで、感染症予防への意識を高めてもらえるのではないかと発想が生まれ、このほどいわき市「まち未来創造支援事業」の助成を受けて、取り組みを開始することとしました。



▲手作りマスク

これは、フードバンクに生活困窮者の相談窓口から食品提供の依頼が入った際、食品を組み合わせる箱の中に入れてお渡ししようというものです。手作りマスクが交流と思いやりを広げ、コロナウイルスに負けない社会づくりを進めていければと思います。

JICA委託事業ストップ

JICA「草の根技術協力事業」の採択を受けて昨年11月からスタートしたミクロネシアでの支援事業は、コロナ禍の中で、渡航自体が行えなくなり、ストップしています。その為、このほどJICAとの協議の上、半年間の事業延長が決まりました。ミクロネシアでは州間の移動も認められない状況にあり、現地調整員も動けない中ではコロナウイルスの収束を待つしか方法がないのが現状です。

クリンピーの家布ぞうり教室再開!!

いわき市リサイクルプラザクリンピーの家で開催する、古着を活用しての布ぞうり教室は市民の人気のプログラムです。年4回、抽選に当たった方々が参加しての教室には本会から講師3名が指導に。残念なことに令和2年度はコロナ禍のため当面の間リサイクル教室は休止との知らせが入っていました。しかし先頃、8月に定員を減らし8名で開催できるとの連絡がありました。貴重な布ぞうり作りの文化を絶やさず繋いでいける事にスタッフ一同胸を撫で下ろしています。



私たちの活動を会員として支えて下さい。
会費納入をよろしくお願い致します。

活動会費 (実際に活動に参加される方と、会報購読という形で支援して下さい) 2,000円/年
賛助会員 (資金的な面から支えて下さる方と 法人・団体会員) 10,000円/年

郵便振替 (02110-0-24908) でお送り下さい。

最近の時間の流れの速さを異常だと感じているのは私だけだろうか。社会の変化が余りも目まぐるしく駆け足で生きている感じがならない。私自身この歳(78)になったことであつたという間と捉えているのだから不思議でならない。小学1年生になったとき6年生が遙かな存在に感じられ自分もなるのだから不安になったことを覚えていて今年10年目になる。迎えた令和2年。いわき市内では台風19号の爪痕が未だ残っていた。被災者からの要望があればその声を聞きに行つたし、食料支援の必要があれば現地まで届けにも行つた。常にアンテナを張って支援の手を緩めず駆けずり回っていた感じである。そろそろ数カ所のサロンを設置し対応するべき時期が来ていると具体的な打合せを始めていた▼そんな矢先、全く誰も予想だにしなかつた世界的事件が起きた。これを国難と表現する政治家もいたが、あつとと言う間に全世界で100万人が新型コロナウイルスに感染し、約50万人が死亡したという。恐ろしいことにその勢いが納まる兆しがない。毎日鰻上りのような感染者数が発表され、遂に4月半ばに全国的な緊急事態宣言が出され、学校の休校、経済活動の鈍化等々誰もががっかりしない努力と▼不要不急の外出をしない努力と▼不要不急の場合、古着をリユースしての店舗運営が基盤事業だから真つ正面からその煽りを受けた。そんな中私自身に体調の変化が起きた。体温は正常なのに頭から火が吹き出した。それは熱さに見舞われた。処方された薬を飲んでも激しく上下する血圧。頭の中は風が吹きまわっているような騒々しさだった。幸い一ヶ月程で血圧が安定、同時に体調が戻ってきた。▼何れにしても自分の歳と体力を過信せずゆつたりと生きていかねば廻りに心配をかけるだけでは済まされないと深く反省した次第である。(K)

ひまわり